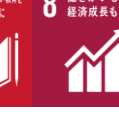


学校教育評価表（2025年度）

学校名 大津市立伊香立小学校

評価の基準（3:よくできた 2:できた 1:あまりできなかった 0:まったくできなかった）

項 目	評 価 の 観 点		自己評価 (3・2・1・0)	学校関係者評価 (3・2・1・0)	関連するSDGsの目標 (参考)
主体的・対話的で深い学 び	1	支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践	2	3	
	2	協働する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善(ICTの活用含む)	2		
	3	主体的・対話的で深い学びを追究する授業研究や研修会の実施	2		
道徳教育の充実	4	生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる活動の実施	2	3	   
	5	ものごとを様々な視点からとらえ考えさせる道徳科の授業・評価に関する研究	2		
	6	保護者等への道徳科の授業公開	2		
体力づくり	7	たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善	2	3	 
	8	体力づくりを推進する運動実践	2		
	9	生涯にわたって健康を保持増進し、進んで体を動かそうとする意欲の育成	2		
指導改善 (組織的・計画的)	10	学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善	2	3	 
	11	教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上	2		
	12	働き方改革の取組と教育活動の質の改善	2		
育ちと学びを支える 連 携					
① 家庭・地域との 連携・協働	13	子育てや家庭教育に対する 保護者への積極的な支援	2	3	  
	14	保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用	2		
	15	防災教育・感染症対策等の推進を含む、地域の実態に応じた安心・安全な学校づくり	2		
② 保幼小中の 連 携	16	子どもの校種間交流や教員の出前授業	2	3	
	17	校種間の授業公開や合同研修会	2		
	18	保幼小中の接続期の教育課程編成等、円滑な接続を図る校種間のカリキュラム研究	2		
組織的体制の 充 実					
① 生徒指導体制の 充 実	19	いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導 ※	2	2	 
	20	生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進 ※	2		
	21	家庭・地域・関係機関との連携による指導	2		
② 特別支援教育の 充 実	22	個別的教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用	2	2	 
	23	組織的・計画的な特別支援教育体制の確立	2		
	24	関係機関と連携した相談体制の充実	2		
※ 特にいじめについては、学校基本方針の評価と関連させて行うこと					
学校満足度	25	児童生徒の学校満足度	2	3	

※	児童生徒アンケートのすべての評価の平均値(3点満点、小数第2位まで記入)	2.46
※	保護者アンケートのすべての評価の平均値(3点満点、小数第2位まで記入)	2.29

* 各校の学校評価書から上記の1～25の観点にかかる自己評価および学校関係者評価結果を取り出し、本表に移記ください。
* 評価の項目と関連があると考えられるSDGsの目標を参考として表示しています。

2025年度 学校教育評価書（大津市立伊香立小学校）																				A: 3.0-2.5 B: 2.4-1.5 C: 1.4-0									
項 目	教職員により自己評価 （3:よくできた 2:できた 1:あまりできなかった 0:まったくできなかった）					保護者によるアンケート （3そうである・2どちらかといえばそうである ・1どちらかといえばそうでない・0そうでない）					児童アンケート （3そうである・2どちらかといえばそうである ・1どちらかといえばそうでない・0そうでない）					学校協力者評価 （3そうである・2どちらかといえばそうである ・1どちらかといえばそうでない・0そうでない）					評価委員会 （3・2・1・0）								
	評 価 の 観 点			評定	昨年度	評価項目			評定	昨年度	評価項目			評定	昨年度	評価項目			評定	昨年度	評定	昨年度	意見・提案等		来年度に向けての改善点				
主体的・対話 的で深い学び	1	支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践			2.1	B	2.2	子どもは、学校に行くのが楽しいと言っている。			2.4	B	2.3	わたしは学校に行くのが楽しい。			2.3	B	2.5	子どもが元気に仲良く学校へ通う姿が見られる。			2.6	A	2.6	2.20	2.31		
	2	協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善（ICTの活用含む）			2.0	B	2.2	子どもは、授業（体育以外）が楽しく分かりやすいと言っている。			2.2	B	2.1	わたしは勉強していることがよくわかっている。			2.2	B	2.4										
	3	主体的・対話的で深い学びを追求する授業研究や研修会			1.9	B	2.2																						
道徳教育の 充実	4	生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳実践力を 育てる活動の実施			2.3	B	2.4	子どもは、学校生活を通して人に優しく、相手を思いやる気持ちが育っている。			2.2	B	2.3	わたしは、学校のきまりを守っている。 わたしは、困っている人や小さい人に親切にしている。			2.3	B	2.5 2.4	子どもは、学校生活を通して人に優しく、相手を思いやる気持ちが育っている。			2.7	A	2.5	2.26	2.33		
	5	道徳科の授業・評価に関する研究や資料の開発・整備・交流			1.7	B	1.9						わたしは、道徳の勉強は大切だと思う。			2.5	A	2.7											
	6	保護者等への道徳科の授業公開			2.3	B	2.2	学校や先生は、道徳の授業内容について積極的に発信している。			2.1	B	2.1																
体力づくり	7	たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善			2.2	B	2.2	子どもは、体育の授業が好きである。			2.3	B	2.3	わたしは、体育の勉強が好きである。			2.5	A	2.5	子どもは元気に体を動かして遊んでいる。			2.5	A	2.6	2.31	2.36		
	8	体力づくりを推進する運動実践			2.1	B	2.2																						
	9	体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする意欲の育成			2.1	B	2.2	子どもは、運動が好きである。			2.3	B	2.4	わたしは、学校の勉強以外でも体を動かすことが好きである。			2.5	A	2.5										
指導改善（組 織的・計画的）	10	学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善			1.9	B	2.3	先生は、学力の定着のためにきめ細かな指導をしている。			2.2	B	2.2	先生は勉強をわかりやすく教えてくれる。			2.6	A	2.7	教職員は子どもたちの教育に真摯に取り組んでいる。			2.8	A	2.7	2.40	2.37		
	11	教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上			2.1	B	2.3	学校は、子どもの学習や生活の様子を、分かりやすく正しく評価している。			2.4	B	2.3	担任の先生だけでなく、いろいろな先生が注意してくれる。			2.5	A	2.5	学校は教員の指導力や教育力向上のために積極的に取り組んでいる。			2.9	A	2.5				
	12	働き方改革の取組と教育活動の質の改善			2.1	B	1.8																						
育ちと学びを支える連携																									別 <				

2025年度 学校教育評価書 (大津市立伊香立小学校)										
項 目		評 価 の 観 点		自己評価				評価委員会 (3・2・1・0)		
				小項目 評価	昨年度	中項目 評価	昨年度	意見・提言等	来年度に向けての改善点	
1	主体的・対話的で 深い学び	1	支持的風土を育てる学級・ 学年集団づくりの実践	2.1	B	2.2	1.98	2.20	■子ども同士で話し合ったり学び合ったりする時間の確保を意識した。主体的に学べるように学習計画を工夫し、興味関心の高い教材を取り入れた。 ■児童が課題意識を持って取り組めるように発問の工夫を行った。 ■個人での学習だけでなく、グループでの学習を取り入れ、役割分担をするなど、交流が深まるよう工夫した。 ■めあての設定とふりかえりを重視し、主体的に学びに向かえるように意識して取り組んだ。 ■児童の実態を見ると、まず、座って学習する、人の話をきく、忘れ物をしないなど、学習の基本を身につけさせることが必要であり、主体的、対話的な学びにまでは至っていないことも多かった。児童の学習意欲が低く、児童が自ら学びたいと思える教材を工夫したい。	◆児童アンケートでは、「先生は勉強をわかりやすく教えてくれる」が2.6ポイントであるのに対し、「わたしは勉強していることがよくわかっている」が2.17ポイントであった。教え方の評価は高いが、学習者自身が「わかった」と実感できていないギャップがある。原因としては、①授業での理解を確かめる仕組みが弱い。②「成功基準」が不明確で、学習のゴールが見えづらい。③振り返り（メタ認知）の時間不足。④授業中の発言機会・交流が少ない。⑤理解を確認しないまま次に進むことで「説明は分かったが、内容は分かっていない」状態に陥っている。等が考えられる。 ◆次年度以降は、校内研究において、児童の「学習がわかる」を増やす授業改善に取り組み、児童の理解実感を高めることで、学力・主体性・授業満足度を底上げする。
		2	協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善（I C Tの活用含む）	2	B	2.2				
		3	主体的・対話的で深い学びを追究する授業研究や研修会	1.9	B	2.2				
2	道徳教育の充実	4	生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる活動の実施	2.3	B	2.4	2.09	2.17	■クラスの実態に合わせた教材を選び、児童の学びを深めるよう努めた。 ■必要な教材を学校単位で準備し保存しているので、系統的・継続的な学習を行える。 ■学年内で隔週で授業交換をすることで、他のクラスの児童理解が進んだ。また、授業の準備の軽減につながった。 ■特別支援学級では、交流級での道徳の学習に加え、ソーシャルスキルカードをつかって、学習に取り組んでいる。	◆児童アンケートでは、「わたしは、学校のきまりを守っている」2.5→2.3「わたしは、困っている人や小さい人に親切にしている」2.4→2.3「わたしは、道徳の勉強は大切だと思う」2.7→2.5といずれも昨年度と比べ、ポイントが減少している。 ◆児童は、学習内容は理解しているように思われるが、実際の生活では実践することが難しいようである。 ◆保護者アンケートでは、「子どもは、学校生活を通して人に優しく、相手を思いやる気持ちが育っている」「学校や先生は、道徳の授業内容について積極的に発信している」のポイントが僅かに減少している。 ◆保護者に対して、学校の取り組みが十分に伝わっていない状況にあるため、道徳参観だけでなく、日頃の道徳での学びを発信し、学校と家庭が同じ方向を向いて教育を進めていく必要がある。
		5	道徳科の授業・評価に関する研究や資料の開発・整備・交流	1.7	B	1.9				
		6	保護者等への道徳科の授業公開	2.3	B	2.2				
3	体力づくり	7	たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善	2.2	B	2.2	2.11	2.20	■準備体操や予備運動などでも十分に体を動かし、運動時間と運動量を意識した授業作りをおこなった。 ■体育の授業だけでなく、休み時間も外遊びなどを通して運動に関われる環境作りを行った。 ■特別支援学級では、体育の学習に加え、自立活動で走ったり、体の使い方を学習している。	◆学級や学年によって取り組み内容に差があるため、1年を通してなわとびに取り組む等、学校全体で共通した取り組みを進めていく。 ◆上述の問題については、教員の体力作りに関する知識や指導技術に差があることが一因であるため、研修体制を整え、指導力の向上に努める。
		8	体力づくりを推進する運動実践	2.1	B	2.2				
		9	体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする意欲の育成	2.1	B	2.2				
4	指導改善(組織的・計画的)	10	学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善	1.9	B	2.3	2.04	2.13	■児童の実態に合った授業改善も必要であるが、学習規律という面からも指導の必要があると感じる。 ■子どもの話を聞くことを大切に指導を行った。 ■児童自身が自ら学習したいと思えるような教材づくりを心掛けた。 ■めあてとふりかえりや子どもの理解度などを確認しながら、授業の内容を考えて改善できるよう意識した。 ■学年で合同授業を行う中で互いに助言しあい、指導改善に繋がった。 ■長期休業中は、授業改善および学級経営にかかわるO J Tを実施できた。 ■学力向上推進委員会にて、本校児童の課題について考察し、次年度の方向性を定めた。 ■定時退勤日や最終退勤時刻の設定を緩やかにし、持ち帰り仕事を減少させ、ワークライフバランスを整えるよう努めた。	◆本校児童の学力的な課題について方向性は定められたが、校内研究のテーマおよび具体的な方法については、再度、学力向上推進委員会で協議する。 ◆O J T研修を定期的かつ計画的に実施する。O J T推進リーダーに頼るのではなく、互いに切磋琢磨する教職員の風土を築き、若手教員の育成に重点的に取り組む。 ◆働き方改革として、次年度は通知表の2期制を取り入れ、夏季休業中・冬期休業中に成績処理事務を行い、教材研究等に取り組む時間を勤務時間内に確保する。 ◆働き方改革として、3学期は、水曜日を午前中短縮5校時日課とし、教材研究等に取り組む時間を勤務時間内に確保する。 ◆上述2点の改革により、定時退勤日や最終退勤時刻を明確に設定する。
		11	教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上	2.1	B	2.3				
		12	働き方改革の取組と教育活動の質の改善	2.1	B	1.8				

2025年度 学校教育評価書
(大津市立伊香立小学校)

項 目			評 価 の 観 点		自己評価				評価委員会 (3・2・1・0)			
					小項目 評価	昨年度	中項目 評価	昨年度	意見・提言等	来年度に向けての改善点		
5	育ちと学びを支える連携	①	家庭・地域との連携	13	保護者の子育てに対する積極的な支援	1.9	B	2.0	2.00	2.13	■保護者との連絡をこまめにとり、児童のがんばりや課題等、日頃の姿の共有を図った。 ■日頃の子ども達の様子について、ホームページ等を通じて発信することができた。 ■登下校の見守りや連絡帳等を通じて、児童についての家庭での困りごとを聞いたり、取り組み方の相談をしたりするなど、連携に努めた。 ■参観など、子どもの様子を見ていただく行事への保護者の参加が大変多く、関心を持ってくださっていることがわかる。	◆参観授業の内容や取り組み方、教育相談体制については、保護者から高い評価を得ている一方、教育目標や道徳の授業内容の伝達、授業が楽しくわかりやすいかという点については、評価が低く、見えにくい活動領域の発信を工夫する必要がある。 ◆保護者は、教員が児童の悩みに誠実に対応していると評価しているが、児童は、学校に相談しづらいと感じており、児童の相談行動の弱さが見られる。「相談すれば対応してくれる学校」から「相談できる学校」への転換が必要であり、学級経営・不登校予防・安心感醸成につながる「頼れる大人」の存在を明確化しなければならない。
				14	保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用	2.1	B	2.2				
				15	防災教育の推進、感染症対策の推進等、安心・安全な学校づくり	2.0	B	2.2				
		②	保幼小中の連携	16	子どもの校種間交流や教員の出前授業	1.7	B	2.1	1.82	1.90	■夢プロジェクトや教育研究会を通して違う校種の状況や課題を交流した。 ■立地の難しさだと思うが、入学前の子どもたちももっと交流できたら、新1年生や現1年生の心構えができて良いと思う。 ■コロナ禍前に実施していた取り組み等がほとんどなくなり、復活できていないところが残念に思う。 ■伊教研を通じて、各園・校の取り組みを知ることで、発達段階に応じた目指す姿が想像しやすくなり、小学校では、どんな力をつけたいか話し合うことができた。 ■連携の大切さを実感しているが、立地条件の悪さから、保幼と1年生の交流等、なかなか実践に結びつかないところに課題を感じる。	◆連携が深められていない要因の一つとして距離的な問題がある。計画的に実施されている伊教研の場を各校の「実践報告会」にするのではなく、「共同研究」にするなど、効果的に活用する必要がある。
				17	校種間の授業公開や合同研修会	1.9	B	1.8				
				18	保幼小中の接続期の教育課程の編成等校種間のカリキュラム研究	1.9	B	1.8				
6	組織的体制の充実	①	生徒指導体制の充実	19	いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導 ※	2.3	B	2.2	2.22	2.20	■気になることは学年間ですぐに情報交換し、必要に合わせて管理職にこまめに伝えることを意識した。 ■担任だけでなく周りの教員にも情報の共有を行うことで、互いに助け合いながら対応ができています。 ■普段からの児童や保護者との信頼関係作りを意識し、児童が安心して自分らしさをだせるよう意識して取り組んだ。	◆毎週月曜日の放課後に、全教職員で情報共有と生徒指導対応の協議を行う時間を確保している。全教職員で全校児童を教育するという観点から、この取り組みは継続したい。 ◆伊香立小学校の当たり前をベースに、各クラスで月ごとの生活目標を設定してきたが、形骸化が否めず、取り組みを徹底できていない。目標を絞り込んだり、取り組み期間を変更したりするなどの対策が必要である。 ◆組織対応を心がけ、報連相を確実に行うことでトラブルが拡大しないように努めた。 ◆あいさつ・やさしさ・きまりを守る等の土台は、特別活動や道徳教育等を通じて、学校文化として持続的に浸透させる。
				20	生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進 ※	2.2	B	2.1				
				21	家庭・地域・関係機関との連携による指導	2.1	B	2.3				
		②	特別支援教育の充実	22	個別的教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用	2.2	B	2.3	2.11	2.23	■子どもたち一人ひとりに合わせた指導を心がけ、本人や保護者と相談しながら支援を考えることを意識した。 ■個に合わせた学習と支援を心掛けて取り組んでいる。少しずつではあるが、成長している姿がみられ、くりかえし何度も学習することの大切さを改めて実感している。 ■弱視児童の入学に向けて滋賀県立盲学校に協力を求め、連携を深めた。 ■支援学級と通常学級、小学校と特別支援学校間で連携を深める必要がある。	◆特別支援学級児童の理解協力については、ここ数年取り組みが不十分であるため、学校全体で協議し、個々の児童における対応や合理的配慮について共通理解した上で、全校体制で取り組みを進めていく。 ◆特別支援教育推進委員会および就学指導委員会を定期的に開催(学期に1回)し、個別の支援計画の作成や修正、引き継ぎ等を確実に行う。
				23	組織的・計画的な特別支援教育体制の確立	1.9	B	2.3				
				24	関係機関と連携した相談体制の充実	2.2	B	2.1				

※ 特にいじめについては、学校基本方針の評価と関連させて行うこと

学校満足度	25	児童生徒の学校満足度	2.5	A	2.5
-------	----	------------	-----	---	-----

※	児童生徒アンケートのすべての評価の平均値(3点満点、小数第2位まで記入)	2.46
※	保護者アンケートのすべての評価の平均値(3点満点、小数第2位まで記入)	2.29